

## ⑪社会福祉法人落穂会 あさひが丘学園



### I 実施法人、事業所概要

- ・都道府県：鹿児島県
- ・サービス類型：入所系事業、通所系事業、訪問系事業
- ・障害種別利用者数：知的障害者：120名
- ・職員数：93名（現場スタッフ89名、事務スタッフ4名）

### II 講師概要

- ・酒井真博（社会医療法人緑泉会米盛病院 感染管理認定看護師）

### III 法人が行っている感染症対策および課題

#### <感染症教育>

・年に1度、職員会議を利用して全職員にインフルエンザや食中毒などの感染症対策の研修を実施し、標準予防策の知識を習得している。また、年に1度施設内の看護師が各部署を回り嘔吐物の処理方法等について実際に使用する道具を用いて講習する機会を設けている。

#### <感染症対策>

- ・県外へ外出予定のある職員や利用者は、上司へ相談し、県外での行動を確認した上で、必要に応じて出勤の制限を行っている。
- ・家族以外（いつも食事を共にしない家族も含む）との食事を自粛している。

#### <感染症対策委員>

感染症対策委員会を設置し、令和2年5月以降は2週間に1回程度新型コロナウイルス対策会議を開催し、感染症対策マニュアルの策定や、衛生用品の備蓄状況の確認、利用者・職員の体調把握、家族等を含む周辺の感染状況の共有等を行った。本会議では、感染拡大状況に応じて「感染拡大対象地域」を設定し、対象地域への往来の自粛を要請するとともに、利用者・家族・職員がやむを得ず対象地域を訪問したり、対象地域居住者

と接触した場合に利用の自粛や自宅待機を求める措置を定め、利用者・家族・職員に周知しそれに沿って対応している。

#### <法人が考える課題>

研修の事前アンケートでは新型コロナウイルス対策に関して以下のような課題・疑問が施設から挙げられた。

- ・施設内で感染が起こった場合の利用者支援の方法が知りたい（重度の障害がある利用者もいるため利用者の理解力によっては、静養ができない場合がある。環境変化に敏感で入院が難しい利用者の施設内での対応等）。
- ・新型コロナウイルスの感染者・濃厚接触者になった職員が出勤できないことにより、職員不足となった際の体制をどうすればよいか悩んでいる。
- ・自分の施設でのゾーニングの方法が知りたい。

#### IV研修実施過程

- ・講師施設内視察
- ・講義（座学）
  - 感染症の基本
  - 標準予防策、経路別予防策
  - 新型コロナウイルスに関する対策
  - ゾーニングの考え方
  - ゾーニングの方法
- ・質疑応答・PPE（個人防護具）着脱演習



## V 特記事項

- ・講義前に施設内の視察をしたことで、講義中や質疑応答にもその状況を踏まえて講師が解答することができた。(入居者がマスクなしで密になっている状況や職員の食事スペースや状況などを事前に把握できた)
- ・防護服(ガウン)は脱ぐ際に首ひもや腰ひもをちぎって外すため、ビニール製の使い捨てのものを使用して研修を行うのがよいように思われた。

## VI 受講後の受講者の感想

研修の事後アンケートでは研修の内容について以下のような感想があげられた。

### < 受講者の感想 >

- ・これまで報道や見聞で得ていた知識を、具体的に分かりやすくまとめた資料を基に説明していただいたことで、より理解に繋がった。また、防護服の取扱い等も実際にやっていただけたことも良かった。
- ・マスク着用の大切さを再認識できた。ついやってしまう「鼻マスク」「顎マスク」も普段の生活の中での癖が影響されると聞き、気を付けなければと思った。また、マスクを外す場面、主に食事場面等、ウイルスが拡散されることのないよう「黙食」の実行に努めようと思った。
- ・ケアの最後に手洗いを忘れない、指先を意識して洗う事、手指消毒は、更に意識して実践しようと思った。
- ・ゾーニングについては、情報だけでは細かい部分の理解ができていなかったが、他の感染症対応の際も汚染区域を広げないという意識をもって対応したいと感じた。
- ・消毒の方法についても手指が見逃されやすいことに納得感があり、チーム間、利用者にも伝えていきたいと感じた。
- ・エプロンや手袋の脱衣についても再確認することができた。

